

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇1月5日～

2026 年は丙午(ひのえうま)です。

60 年前の丙午の時は出生率がかなり下がったようですが丙午は昔から厄災の記録が多く残されているため火事、災害などにも注意がいります。

株の世界では午の年は株価が尻下がりとなることが多く、1990年のバブル崩壊も午の年でした。辰巳天井というのも株の世界では有名ですが昨年が巳年で今年が午年というのは89年、90年を彷彿とさせます。

ということで、5 万円を超えている日経平均が今年どうなっていくのか気になります。

為替市場は1990年にドル／円が160円あたりをつけて、その後1995年の79円をつけるまでバブル崩壊とともに5年ほど円高の動きが続きました。

株価サイクルと為替のサイクルは同じではありませんが大きく株価が動く時、マーケットに影響が出ると考えておきたいです。

仮想通貨(ビットコインなど)は勢いがなくなりつつありますが、高値圏にあるため暴落が起こるリスクはあります。

今年はそれぞれのマーケットで大きな動きが出る可能性があるため為替市場と関係のないマーケットの動きも重要です。

年明け早々のニュースとしてトランプ大統領がベネズエラを攻撃し、マドゥロ大統領夫妻を拘束したようです。米国で裁判にかけるとのことですがどうなっていくのか心配です。

表向きはフェンタニル(合成麻薬)対策となっていますが別の目的もあるのではという指摘もあります。フェンタニルはほとんどがメキシコ経由で米国に入っています。

フェンタニルよりコカインの経由地にベネズエラはなっています。そして、ベネズエラと言えば原油です。

特にディーゼル燃料になる原油を多く輸出しています。ディーゼル燃料の値段が上がれば世界的にインフレのリスクが高まってきます。

昨年の商品市場では原油の動きは落ちていましたが貴金属は大きく上昇しました。

貴金属だけでなく原油価格も上昇していくとインフレに拍車がかかる恐れがあります。

過去の動きを見ると原油価格と物価高(インフレ)は連動しています。

資源国通貨にとって原油高は追い風となりますが、日本の円にとってはマイナスになるため円安リスクがさらに高まるということです。

米国市場を見ると年末・年始は株価も堅調な動きとなっていますが本格的に市場が動き始める今週の動きがどうなるかは今年の前半の相場を見ていく上でも重要です。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

年末に155円台まで下落したドル／円ですが年明けは上昇し、157円あたりまで戻してきました。11月後半から続いている154－158円程度のレンジの中を動いている状態なので、年明けに158円をブレイクして160円を目指す動きが出るかに注目したいです。

上値は157円を超えると157.8円がターゲットになります。

ここを超えると2025年1月高値の158.8円が視野に入ってきます。

下値は155.5円を割り込むと154.3円あたりのサポートまで下がるリスクがあります。

<気になるクロス円>

クロス円も年明けは高値圏で推移しているペアが多いです。

ユーロは12月後半から少し下げてきているので、週明けの動きに注目したいです。

日足、週足で下げてきた場合は調整入りの可能性も出てくるため慎重に取引したいです。

南アフリカのランドは、プラチナ価格が上がっていることで上昇に勢いがつき、2018年の高値を超えてきました。上昇が続けば10円のせとなりそうです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では特に指標発表はありません。

米国では12月ISM製造業景況指数、12月サービス部門・総合PMI(改定値)、12月ADP雇用統計、12月ISM非製造業景況指数、11月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、10月製造業新規受注、前週分新規失業保険申請件数、10月貿易収支、12月雇用統計、10月住宅着工件数、1月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで12月サービス業PMI(改定値)、12月消費者物価指数、11月小売売上高、ドイツでは11月製造業新規受注、11月鉱工業生産、ユーロ圏では11月卸売物価指数などがあります。

ほかには、オーストラリアで11月消費者物価指数などがあります。